

レッツチャレンジ

武蔵村山市学力向上推進委員会
家庭向け広報紙 第18号
平成25年3月13日発行
委員長 牧 一彦

学校と家庭が連携して「自分の考えを表現できる」児童・生徒を育てる
～平成24年度「全国学力・学習状況調査」の結果から～

【漢字の読み書き】

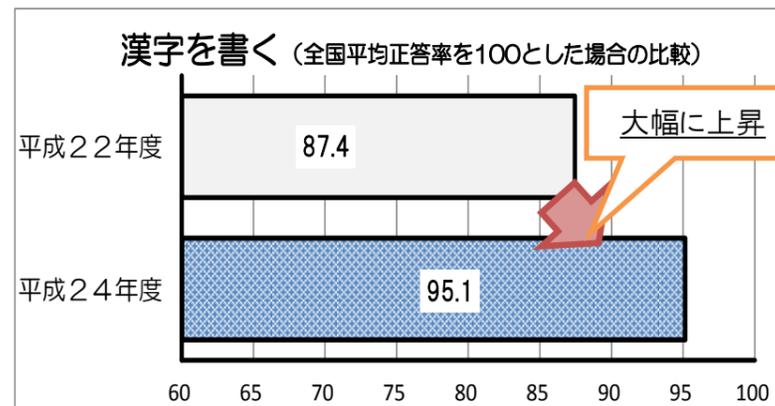
漢字の読み書きについて、全国平均正答率を100とした場合の、武蔵村山市立中学校5校の平均正答率を、前回の同調査結果と比較をしました。「漢字を書く」問題の平均正答率が大幅に高くなっていることが分かります。



また、漢字の読みの問題「会議で決を採る」の平均正答率は76.4%で、全国平均正答率73.8%、東京都平均正答率75.1%を上回っていました。

＜中学校3年生＞

平成17年度から実施している小学校3・4年生の漢字検定に加え、平成24年度からは、中学校においても実施しています。現在の中学校3年生は、小学校3年生の時にも実施をしているので、継続的な取組の効果が表れてきているものと考えられます。



また、平成25年度から「武蔵村山市立学校 漢字ステップアップシート」を全児童・生徒を対象に実施するため、現在、試行版を各小学校の1年生から4年生までで実施しているところです。試行結果を踏まえ、児童・生徒が、自ら目標をもって意欲的に学習する態度を身に付け、主体的に家庭学習に取り組めるよう、教育委員会で中学校3年生までの完全版を作成してまいります。

【無回答】

平成15年、OECD（経済協力開発機構）が国際的に実施した「生徒の学習到達度調査」（いわゆるPISA調査）において、自由記述式問題の無回答率が、OECD平均よりおよそ8%も高かったことが大きく報道されました。

平成24年度の「全国学力・学習状況調査」の結果から、武蔵村山市の児童・生徒の実態として、全国平均よりも更に「無回答率」が高いことが明らかとなっています。

【中学校「国語B（主として活用に関する問題）」】

1 話すこと・聞くこと、書くこと

この問題は、作家の大岡玲さんと女優の壇ふみさんの対談の一部を読み、その内容に対しての自分の考えを書くことができるかどうかを見るものです。

ここでは、2人の対談者いずれかの発言内容を取り上げ、自分がこれからどのような言葉の使い方をしたいのかについて、80字以上120字以内で書くことが求められています。

下の表のとおり、この問題の平均正答率は、全国平均正答率を上回っているものの、無回答率はおよそ2倍となっていることが分かります。

	平均正答率 (%)	無回答率 (%)
武蔵村山市	20.7	25.7
全国（公立）	20.6	13.1

成果平均正答率全国平均より+ 0.1ポイント

課題無回答率全国平均より+ 12.6ポイント

（無回答率とは、回答欄に記述をしない生徒の割合です）

【小学校「算数B（主として活用に関する問題）」】

1 (2) 数と計算

この問題は、代金630円に対して、1030円よりも1130円を支払った時の方が、おつりの硬貨の枚数が少なくなるわけを書くものです。複数の考え方を比較して、どちらが合理的な支払いになるのかを数学的に表現することが求められています。

平均正答率は、全国平均正答率を上回り、大きな成果を上げていますが、無回答率が高いことも分かります。説明をすることや書くことに対して自信がない児童に対して、進んで書くことができる力を身に付けさせる必要があります。

	平均正答率 (%)	無回答率 (%)
武蔵村山市	47.0	9.2
全国（公立）	42.8	5.6

成果平均正答率全国平均より+ 4.2ポイント

課題無回答率全国平均より+ 3.6ポイント

（無回答率とは、回答欄に記述をしない児童の割合です）

美しい日本語とは

大岡 玲さん×
壇 ふみさん



対談の概要

日本語の歴史に触れて、昔の言葉や昔から指摘されている言葉の乱れなどについての話

自分たちの体験を振り返って、聞き苦しく感じる言葉や美しい言葉などについての話

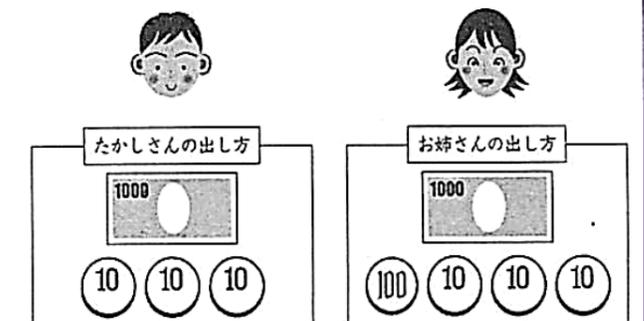
使う言葉の数が少なくなっている、「言葉のあいまい化現象」についての話

次の日、たかしさんは、お姉さんと買い物に行きました。

(2) 品物の代金は630円でした。

たかしさんは、おつりの硬貨の枚数を少なくするために、お金の出し方をくふうして、1000円札に30円を加えて出そうとしました。

すると、お姉さんが「1030円に、あと100円加えたら、おつりの硬貨の枚数ももっと少なくなるよ。」と言いました。

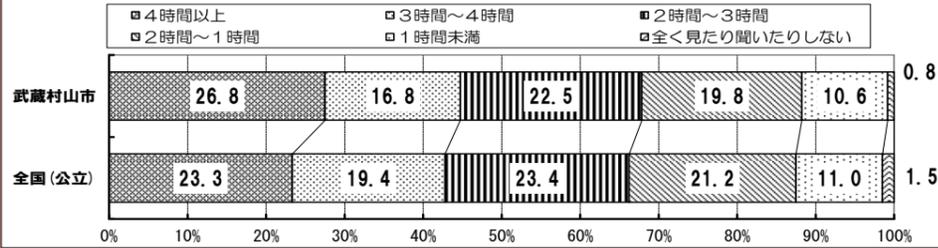


たかしさんとお姉さんの出し方では、お姉さんのほうがおつりの硬貨の枚数が少なくなる考えられます。

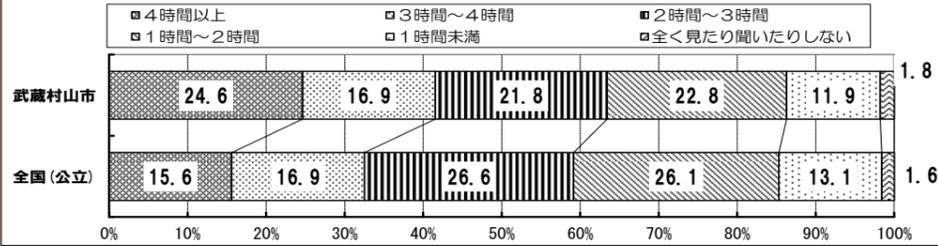
お姉さんの出し方のほうが少なくなる考えられるわけを、2人のおつりの硬貨の種類と枚数を比べて、言葉と数を使って書きましょう。

テレビ等の視聴時間

普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしますか。（小学校6年生）



普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしますか。（中学校3年生）



【質問紙調査から】

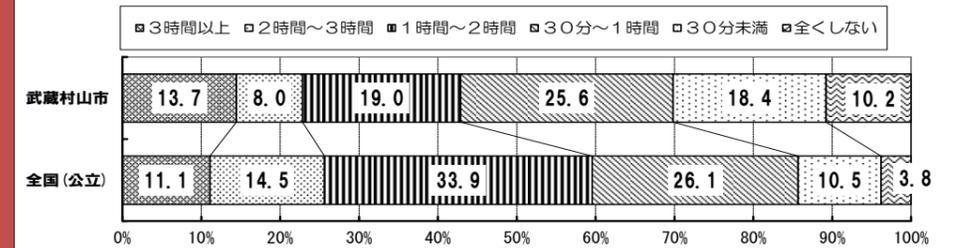
同調査の「児童・生徒質問紙」調査から、武蔵村山市立学校の児童・生徒の生活の様子がわかります。

左側の2つのグラフから見られるとおり、平日、児童・生徒が「テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりする」時間が全国平均と比べると長い傾向があり、中学生になるとその違いは顕著です。一方、右側のグラフから見られるとおり、平日の家庭における学習時間を全国平均と比較してみると、テレビ等の視聴時間とは逆に、家庭学習時間が短いことがわかります。特に、1時間以上家庭学習を行う割合で比較すると小学生では18.8ポイント、中学生では13.5ポイントの差が見られます。

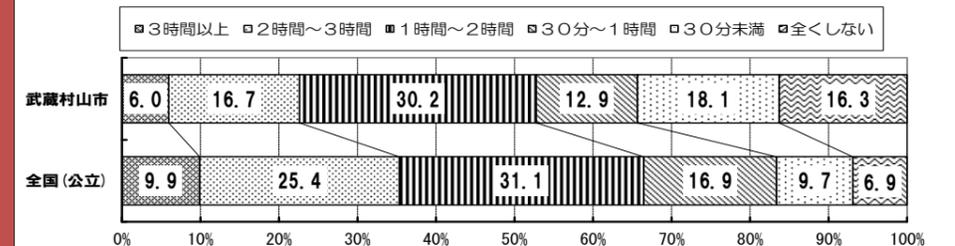
児童・生徒が進んで家庭学習に取り組んでいけるよう、学校での指導も工夫をまいりませう。

平日の家庭学習時間

学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしていますか。（小学校6年生）



学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしていますか。（中学校3年生）



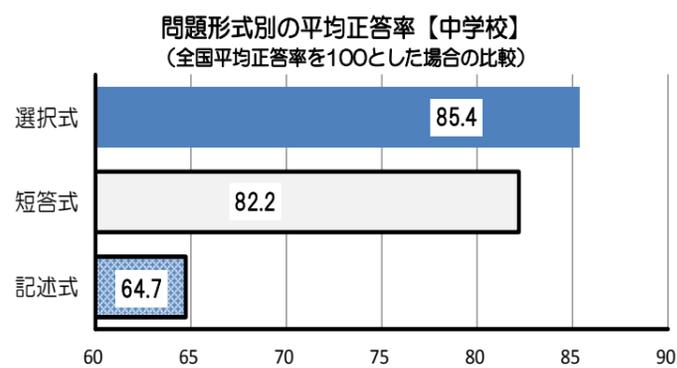
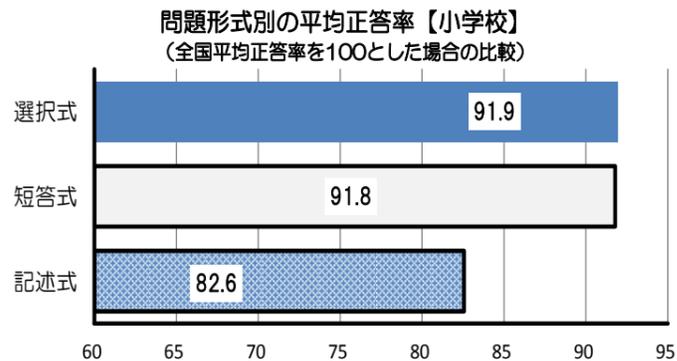
学校と家庭が連携して「自分の考えを表現できる」児童・生徒を育てるために ～テレビやDVDを見る時間を減らし、家庭学習の時間へ～

【記述式の問題】

全国学力学習状況調査では、大きく分けると「選択式」「短答式」「記述式」の3つの問題形式から構成されています。国語、算数・数学、理科の3教科を併せて、問題形式別に分析をしてみました。全国平均正答率を100とした場合、小・中学校ともに「記述式」の問題の正答率が低いことがわかります。

学校では、「確かな学力」を身に付けるために、その基盤となる「言語能力」を高めていくことが重要視されています。

平成25年度、武蔵村山市の全ての小・中学校において、「言語能力」向上を図るための校内研究を通して、子供たちの「確かな学力」を高める予定となっています。



- 「選択式」 → ア・イ・ウなどの選択肢から選ぶ問題
- 「短答式」 → 言葉や数字を当てはめる問題
- 「記述式」 → 考えなどを文章で記述する問題

1 ほめて自信をもたせましょう

児童・生徒が、自分の考えを文章で書いたり、説明したりする力を高めるためには、失敗することを恐れず、進んで表現できるようにすることが大切です。たとえ児童・生徒が失敗をしても、いろいろと自分で取り組んだり、考えたりしたことをほめることが、子供たちが進んで取り組む意欲につながります。

学校でも、児童・生徒のよいところをたくさんほめていきますので、家庭でも、たくさんほめてあげてください。そして、そこから始まる親子の会話も、児童・生徒の言語能力が高まる一つの大切な要素になります。

2 家庭学習の習慣をつけさせましょう

15分を単位として、学習時間を確保し、毎日勉強させてください。

遊びと勉強のけじめをつけるためにも、勉強をする場所と遊ぶ場所を区別させることもいいでしょう。場所がなければ、机の向きや座る場所を変え、勉強をする場所を固定することも習慣づけるための工夫の一つです。

平成25年度から全小・中学校で活用する予定の「漢字ステップアップシート（右図参照）」を家庭学習でも活用してください。基礎・基本が一層定着していくことが、児童・生徒の自信にもつながっていきます。

武蔵村山市立学校 漢字ステップアップシート

【書き】ステップ33（小3スタンダード）

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺

① なんでもしっぱいしたが、ついに、さか上がりが、できるようになった。

② わが家の犬がしぬと、大事なかぞくがうしなわれたようで、さびしくなった。

③ 大人になって、あわせにくらしたためには、今、どかすることが大切だ。

④ 校舎がないでは、気がついたら、すぐこみをはるうよう心がける。

⑤ ポートボールは、かつことも大事だが、はげまし合うことが、もっと大事だ。

⑥ がつきゅうかつびの話し合いで、ほんたい意見を聞く。

⑦ おさし村山市やく所前まで、モノレールが来るのをまつ。

⑧ 雨がふってきたので、いそいで家に帰った。

⑨ 学びの会に向けて、大道具づくりのさぎょうを、少しずつすすめる。

⑩ しゅくだいをすませてから、ゲームをするのが、わがやのさそくだ。

⑪ クラスのみんなでできたことは、しっかりとまもる。

⑫ まどから見える、てらのやねで、ねこが寝かしている。

⑬ 展覧会に出された絵画は、ぼくがくしんして作ったさくひんだ。

⑭ みんながこうふにくらせるようにするために、はじめはせったい見のがさない。

⑮ 村山大島つむぎは、東京都でもゆうめいな、でんとう工けいひんだ。

⑯ 音楽の先生に教わったとおり、うつくし、声で、こっかをうたった。

⑰ 今日から、くしよしゅうかんが、はじまる。

⑱ さきゅうりょうのきたは、さい五けんだ。

⑲ 東京都には、二十三のくと、二十六のりがある。

⑳ やじるしが、南の方角をさしている。